

記録システムを有効に活用するために

確実な情報伝達と
ゆとりのあるケアのために

長上苑ショートステイ
鈴木智大

施設の概要



はじめに

【取り組み理由】

- 平成24年4月より記録システム『ちょうじゅ』の導入



4年後の現在

- 申し送りの方法が『ちょうじゅ』導入以前と見直しされていない現状



- 『ちょうじゅ』を活用できていない？

自分自身の疑問点

- 記録している情報と同じことを口頭でも伝える必要があるのだろうか？
- 情報伝達の重複ではないか？
- ご利用者様から目が離れてしまう。
- 入苑されるご利用者様を待たせてしまう。

【取り組み①】

『ちょうじゅ』への記録に関して現状把握の為、アンケートの実施

入力した内容が
しっかり伝わるか不安

『ちょうじゅ』
に何を入力したら
良いか分からない？

日中や
夜間の細かい
様子が分からない



【取り組み②】 入力方法と伝達方法の 統一化を図る

- 口頭で申し送りをしたことが、『ちょうじゅ』には記録がされていない！



- 口頭での申し送る事柄は必ず『ちょうじゅ』にも記録をする
- 申し送り内容は赤字にする

【取り組み③】 ご利用者が発した 言葉をそのまま記録していく

以前の日中の記録

07:30	08:00	朝食	10: 9						
08:00	08:30	排泄量		し					
08:30		が(例外)			36.4				
10:00		朝食							
12:00	12:30	昼食	10: 0						【介助】自立、【場所】食堂
13:00		排泄量		し					
15:00		朝食							【摂取量】○
16:00		排泄量		△					
17:30	18:00	夕食	10: 5						【介助】自立、【場所】食堂

記録が少なく
様子が分からない

現在の日中の記録

07:30	08:00	朝食	10: 9						【介助】自立、【場所】食堂
08:00	08:30	排泄量		し					
08:30		が(例外)			36.4				
09:00		尿の様子							【尿分】
10:00		朝食							【摂取量】
12:00	12:30	昼食	10: 0						【介助】
13:00		排泄量		し					【対応】
13:30		排泄量							【対応】「トイレの場所が分からなくなっちゃった」と叫んでいる
15:00		朝食							【摂取量】○
16:00		排泄量		△					
16:30		尿の様子							【尿分】「私いつ帰るの？」と帰宅願望あり頻りに夜母室まで来られる
17:30	18:00	夕食	10: 5						【介助】自立、【場所】食堂

「トイレの場所が
分からなくな
っちゃった。」

以前の夜間の記録

17:30	18:00	夕食	10: 7						
18:40		就寝時							
21:00		睡眠中							
22:00		睡眠中							
23:00		睡眠中							
00:00		睡眠中							
01:00		睡眠中							

『居室より出てくる。』の
みの記入の為、
何故居室から出てきた
のかが分からない

『異常なし』だけ
では、睡眠状況
がはっきりしない。

【様子】居室より出てくる。【対応】時間を計り入眠促す。

【様子】異常なし

【様子】異常なし

【様子】異常なし

【様子】異常なし

【介助】自立、【場所】食堂

現在の夜間の記録

17:30	18:00	夕食	10: 7						【介助】自立、【場所】
18:40		就寝時							【様子】自分で居室
21:00		睡眠中							【様子】開眼、もろもろ
22:00		睡眠中							【様子】良眠されている
23:00		睡眠中							【様子】良眠されている
00:00		睡眠中							【様子】良眠されている
01:00		睡眠中							【様子】居室より出てくる「私いつ帰るの？」とのこと、【対応】朝まで目を覚まして、時間を計り入眠促す。
02:00		睡眠中							【様子】良眠されている
03:00		睡眠中							【様子】良眠されている
04:00		睡眠中							【様子】良眠されている
05:00		睡眠中							【様子】開眼「目が覚めちゃった」とのこと、【対応】お水を一杯飲ませる。
07:30	18:00	朝食	10: 9						【介助】自立、【場所】食堂

居室より出てくる
「私いつ帰るの？」

開眼
「目が覚めちゃった」

7項目の定型文

- ① 良眠されている
- ② 開眼
- ③ 居室より出てくる
- ④ コール有り
- ⑤ テレビを見ている
- ⑥ センサー反応有り
- ⑦ ベッドで端座位で座っている

【取り組み④】
《口頭での申し送りなし》を実施し、
その後アンケートをとる



まとめ・今後の課題

●まとめ

ご利用者様の言動に対する意識の向上に繋がる
生活の様子が細かく分かるようになる

●課題

まだ記録の統一化がされていない
新規ご利用者様の記録が少ない

今後の取り組み

- 記録のマニュアルを作成する
- 口頭による申し送りなしの実施期間を今後も設けていく
- 『笑顔が見られた』や『楽しまれていた』等、ご利用者様の明るい記録を増やしていく

ご清聴ありがとうございました